

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
〒680-0846鳥取市扇町21番地
東教発 H24. 3. 13 No.112
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

夢に向かってのびる 杉っ子

智頭町内の6つの小学校が統合され、新しい智頭小学校が開校します。子どもたちは新たな歴史のスタートに向けて希望を膨らませています。学校の教育目標「夢に向かってのびる杉っ子」の実現に向けて、各校長先生方に思いを伺いました。



新校章は「智」の周りにどうだんつつじを集めた形で、6つの文化や思いが集まって新しい学校をつくり上げていくことを意味しています。

- めざす児童像
- 夢や希望に向かい、進んで学ぶ子ども
 - 命を大切に、心をみがく子ども
 - 心や体の健康づくりに取り組む子ども
 - 智頭町に誇りをもち、明日をつくる子ども

智頭小

統合のことも考えながら、道徳や全教育活動を通して思いやりの心を育ててきた。町で1校になることは、教師も子どもたちも同じ目標に向かって取り組めるチャンスである。「6校のよさを統合する」という教師の意識のもと、さらに伸びる子どもに育ててほしい。



富沢小

「村が学校を育て、学校が村を育てる」まさに地域密着型の学校で育った富沢の子。4月から統合小学校の大人数の中で、学習できることはとても素晴らしいこと。一人一人が凜と胸を張って自分の思いを発表できる子どもに育ててほしい。



土師小

恵まれた自然や温かな地域に囲まれて、体を鍛え、感性を磨いて育った子どもたち。「新しい学校文化は子どもたちの力で」と考え、特別活動に特に力を入れてきた。今後も話し合い活動を通して、6校の文化のそれぞれの良さを紡いでいってほしい。



那岐小

「いのち ふれあい 那岐の郷」というキャッチフレーズのもと、地域を守る多くの人々に支えられ、何事にも前向きに取り組み、素直に明るく育ってきた。那岐を誇りに思うとともに、統合小学校でも自分の居場所を見つけながら、たくましく成長してほしい。



山郷小

山郷杉太鼓に象徴されるように、人前でも堂々と表現できる力を培ってきた。今後も失敗を恐れず、自分で考え工夫して何事にも進んで挑戦してほしい。そして、自分たちの学校を楽しい学校にし、どの子どもも学校を好きになってほしい。



山形小

「山形小のいいところはあいさつです。」着任式場で、6年生の代表が述べた。子どもたちは、そのあいさつで世界を広げ成長し、地域の方々を元気づけてきた。あいさつを大切に、大勢の中で「一人で立つ」たくましい子どもに育ててほしい。



統合に向けては智頭町教委が中心となり、保護者部会や6小学校教職員によるカリキュラム作成等多くの話合いを重ね、丁寧に準備が進められてきました。どの小学校も地域に愛され地域に守られ、歴史や文化を受け継いでいます。こうした思いを大切にして、「統合はステップであり、目的ではない。」という考えを念頭に、一人一人の夢の実現に向けてたくましく成長していく子どもたちを育てていってほしいと願っています。

策は必ずある

局長 久岡 賀代子

平成23年3月11日の東日本大震災から1年が経ちました。震災で亡くなられた皆様に哀悼の意を表すとともに、被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の様子を見るにつけ何か役に立つことはできないかと思い、昨年秋、職員と一緒に石巻市立門脇中学校を訪れ、短時間でボランティア活動をしてきました。ちょうど新人戦の登校日で、教職員や生徒にも会うことができました。野球部の生徒は礼儀正しく挨拶をしてくれ、職員室の先生方は生徒第一に日々取り組んでいる思いを語ってくださいました。そのとき、「『学校が元気』であると、子どもたちは前に進んで生きていける。教職員が笑顔で『夢』を語ると、子どもたちも将来の『志』を持って生きていける」と強く感じました。

また、震災の様々な場面で、被災者の皆様の前に進む強さを多く見ました。そのとき、「百編倒れたら、百編立ち上がり、万策尽きたと言うな。策は必ずある。」という松下幸之助の言葉が浮かんできました。学校は子どもたちの将来のために、人間力(生きる力)をつける場です。そのための策は必ずあるはず。困難にぶつかっても諦めず、粘り強く取り組む中で活路を見いだしてほしいです。

帰り際に被災者の方から「遠い鳥取から来てくださって嬉しい。もう忘れられているのかと思った。」と言われました。震災のことは決して過去のことではありません。わたしたちは未来を担う子どもたちとともに社会の一員として何ができるのか考え、行動できる力が必要だと考えています。



児童生徒の内面を理解し、個に応じた支援を広げるために

～白兔養護学校通級指導教室「ハーモニー」の取組～

「ハーモニー」は東部地区の小学校(通級指導教室のある地域を除く)・中学校の発達障がいのある児童生徒を対象とした通級指導教室で、児童生徒への支援の輪が、学校内外に広がることをめざして活動しています。

その取組は各学校でいかせるものが多くあります。効果のあった取組を紹介します。



〈通級指導の様子〉

指導に至るまでの流れ

- ①児童生徒、学校、家庭から困っていることを聞き取る
- ②児童生徒の課題に合った目標を設定する
- ③学習内容を設定する

支援のポイント

- ・発達障がいの特性をふまえた支援になっているか
- ・学校や家庭でいかせる支援になっているか

効果のあった指導・支援の例

発達障がいのある児童生徒には、物事の捉え方・感じ方に偏りがあり、状況に応じた行動や感情のコントロールが難しいことがあります。どのように理解し支援していけばよいでしょうか。

😊 本人の感じ方や物事の捉え方を知り、解決に向けて話し合しましょう

- ◇トラブルがあったときの行動や発言の理由を詳しく聞き、本人の感じ方を理解する。
- ◇「当たり前、分かっているだろう」と思われることでも、本人に確認をする。
- ◇解決に向けて実際にできそうなことを話し合い、自己選択・自己決定を促す。

・間違った解釈をしていた場合、本人にとって分かりやすい方法で修正します。文字や絵を一緒に使って説明すると分かりやすいです。

😊 周りの人が、ほめたり気持ちを伝えたりしましょう

- ◇本人がほめられたと感じる言葉は何かを確かめる。
- ◇解決に向けて一つでもできたときは、ほめて自信へとつなげる。
- ◇周りの人がどう思っているかを伝えるようにする。

・できたことを具体的にほめましょう。
「～がよかったよ。」等

😊 分かりやすい話し方や気持ちの伝え方の練習をしましょう

- ◇5W1Hを意識した話し方を練習する。
- ◇質問を出し合い、話のポイントを聞き取り、分かりやすく答える練習をする。
- ◇話の内容を、自分のことから周囲の人へと広げていく。
- ◇分かりやすく話せた、自分の気持ちを伝えられたという経験を積み重ねる。

・「たすかった」「ありがとう」「うれしい」などの感謝の言葉も有効です。
・自己肯定感を高め、安心感をもって生活を送ることにつながります。

・周囲の人を意識することや、相手の気持ちを理解することにもつながります。

発達障がいのある児童生徒への必要とされる支援が、各学校で広がっています。個に応じた支援にしているためには、指導者だけで支援の方法を決めるのではなく、「どんなことで困っているのか」「どのように助けてほしいのか」を本人に具体的に聞きながら一緒に検討していくことが大切です。各通級指導教室の取組、医療機関からのアドバイスなども参考にし、ぜひ来年度の支援を充実させる手がかりとしてください。

社会教育コーナー

地域の応援団 学校支援ボランティア事業の取組

～できる人が、できるときに、できることを～

八頭町立八東小学校

八東小学校では、学校とボランティアをつなぐコーディネーターをパイプ役に、地域・家庭・学校が一体となって子どもたちを育てる体制づくりを進めてきました。具体的には、各学年の要望に応じた学習支援や、環境整備等に取り組んでいただいています。限られた人数や時間の中で、無理のない範囲での支援をお願いしています。

【取組の工夫】

- ①以前から学校に関わり、学校・地域両方のことが分かる方をコーディネーターとして依頼する
- ②コーディネーターが、各学年のニーズに応じてボランティアを確保する
- ③ボランティアルームに学校とボランティアの連絡用のホワイトボードを設置する

【主な支援内容と活動事例】

《主な支援内容》

- ・家庭科での縫い方やミシンの使い方
- ・書写指導
- ・プリンターの花の手入れや苗作り
- ・図書館司書の勤務がない放課後の本の貸し出しや返却 など

家庭科のナップザックやエプロンの製作で、しつけ縫いやミシンの使い方などを教わりました。

気軽にすぐ尋ねられて、作業もスムーズに進みます。



【成 果】

- ・開かれた学校づくりにつながった。
- ・教師が専門的な技能を学ぶ機会になった。
- ・挨拶をよく交わすようになるなど、地域での大人と子どもとの交流が広がった。
- ・地域の人々の学校や児童への関心がより高まった。

地域の方が学校を支援することは、子どもたちにとって学習意欲やコミュニケーション能力が高まり、地域への愛着なども深まります。また、大人にとっても生き甲斐を感じ、元気のよい地域をつくろうという気持ちにつながります。次年度の学校経営にぜひ地域の力を有効に取り入れてほしいと思います。